

演習問題 1.5 命題 1.7 を証明せよ。

線型写像の定義にある 2 つの性質の成立をチェックすればよい。(1) と (4) のみ示すので、残りは各自証明する事。

(1) 任意の $x, y \in V$ に対し $\text{id}(x + y) = x + y = \text{id}(x) + \text{id}(y)$ が成立する。また任意の $x \in V$ と任意の $\alpha \in K$ に対し $\text{id}(\alpha x) = \alpha x = \alpha \text{id}(x)$ が成立しているので、 id は線型写像である。

(4) 任意の $x, y \in U$ に対し $(T_1 + T_2)(x + y) = T_1(x + y) + T_2(x + y) = T_1(x) + T_1(y) + T_2(x) + T_2(y) = T_1(x) + T_2(x) + T_1(y) + T_2(y) = (T_1 + T_2)(x) + (T_1 + T_2)(y)$ が成立する。また任意の $x \in U$ と任意の $\alpha \in K$ に対し $(T_1 + T_2)(\alpha x) = T_1(\alpha x) + T_2(\alpha x) = \alpha T_1(x) + \alpha T_2(x) = \alpha(T_1(x) + T_2(x)) = \alpha(T_1 + T_2)(x)$ が成立しているので、 $T_1 + T_2$ は線型写像である。

演習問題 1.6 $\text{Hom}(U, V)$ が線型空間になる事を示せ。

命題 1.7 で定義した線型写像の和及びスカラー倍が定義 1.4 の 8 つの条件を満たすことをチェックすればよい。

(1) (結合法則) 任意の $T_1, T_2, T_3 \in \text{Hom}(U, V)$ に対し $(T_1 + T_2) + T_3 = T_1 + (T_2 + T_3)$ を示す。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $((T_1 + T_2) + T_3)(x) = (T_1 + (T_2 + T_3))(x)$ を示せばよい。実際 $((T_1 + T_2) + T_3)(x) = (T_1 + T_2)(x) + T_3(x) = (T_1(x) + T_2(x)) + T_3(x) = T_1(x) + (T_2(x) + T_3(x)) = T_1(x) + (T_2 + T_3)(x) = (T_1 + (T_2 + T_3))(x)$ となり成立している。

(2) (交換法則) 任意の $T_1, T_2 \in \text{Hom}(U, V)$ に対し $T_1 + T_2 = T_2 + T_1$ を示す。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $(T_1 + T_2)(x) = (T_2 + T_1)(x)$ を示せばよい。実際 $(T_1 + T_2)(x) = T_1(x) + T_2(x) = T_2(x) + T_1(x) = (T_2 + T_1)(x)$ となり成立している。

(3) 命題 1.7(2) の線型写像 O がこの性質を示す。任意の $T \in \text{Hom}(U, V)$ に対し $T + O = T$ を示す。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $(T + O)(x) = T(x)$ を示せばよい。実際 $(T + O)(x) = T(x) + O(x) = T(x) + \mathbf{0} = T(x)$ となり成立している。

(4) 任意の $T \in \text{Hom}(U, V)$ に対し $T' = (-1)T$ とおく。これが (4) の性質をもつ事を示す。即ち $T + T' = O$ を示す。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $(T + T')(x) = O(x)$ を示せばよい。実際 $(T + T')(x) = T(x) + T'(x) = T(x) + ((-1)T)(x) = T(x) + (-1)(T(x)) = \mathbf{0} = O(x)$ となり成立している。

(5) (分配法則) 任意の $T_1, T_2 \in \text{Hom}(U, V)$ と任意のスカラー $\alpha \in K$ に対し $\alpha(T_1 + T_2) = \alpha T_1 + \alpha T_2$ を示せばよい。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $(\alpha(T_1 + T_2))(x) = (\alpha T_1 + \alpha T_2)(x)$ を示せばよい。実際 $(\alpha(T_1 + T_2))(x) = \alpha((T_1 + T_2)(x)) = \alpha(T_1(x) + T_2(x)) = \alpha(T_1(x)) + \alpha(T_2(x)) = (\alpha T_1)(x) + (\alpha T_2)(x) = (\alpha T_1 + \alpha T_2)(x)$ となり成立している。

(6) (分配法則) 任意の $T \in \text{Hom}(U, V)$ と任意のスカラー $\alpha, \beta \in K$ に対し $(\alpha + \beta)T = \alpha T + \beta T$ を示せばよい。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $((\alpha + \beta)T)(x) = (\alpha T + \beta T)(x)$ を示せばよい。実際 $((\alpha + \beta)T)(x) = (\alpha + \beta)T(x) = \alpha T(x) + \beta T(x) = (\alpha T)(x) + (\beta T)(x) = (\alpha T + \beta T)(x)$ となり成立している。

(7) 任意の $T \in \text{Hom}(U, V)$ と任意のスカラー $\alpha, \beta \in K$ に対し $(\alpha\beta)T = \alpha(\beta T)$ を示せばよい。

そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $((\alpha\beta)T)(x) = (\alpha(\beta T))(x)$ を示せばよい。実際 $((\alpha\beta)T)(x) = (\alpha\beta)T(x) = \alpha(\beta T(x)) = \alpha(\beta T)(x) = (\alpha(\beta T))(x)$ となり成立している。

(8) 任意の $T \in \text{Hom}(U, V)$ に対し $1T = T$ を示せばよい。そのためには任意のベクトル $x \in U$ に対し $(1T)(x) = T(x)$ を示せばよい。実際 $(1T)(x) = 1T(x) = T(x)$ となり成立している。

演習問題 1.7 上の事実の残りの部分を証明せよ。

(2) 線形解析で学んだ様に $T_A : K^n \rightarrow K^m$ が同型写像なら 2 つのベクトル空間 K^n, K^m の次元は等しくなり, $m = n$ が出る。よって $m \neq n$ のとき T_A は同型写像にならない。よって $m = n$ を仮定する。

最初に A が正則行列のとき T_A が同型写像である事を示す。 A は正則行列であるから A の逆行列 A^{-1} が存在する。 $T_A(x) = T_A(y)$ とすると, $Ax = Ay$ となっている。よって左から A^{-1} をかけて $A^{-1}Ax = A^{-1}Ay$ となり, $Ex = Ey$ 即ち $x = y$ となり T_A が一対一写像である事が分かる。次に上への写像である事を示す。任意の $y \in K^n$ に対し $x = A^{-1}y$ とおくと $T_A(x) = Ax = A(A^{-1}y) = (AA^{-1})y = Ey = y$ となり T_A が上への写像である事が分かる。

逆に T_A が同型写像であると仮定する。 e_1, \dots, e_n を K^n の基本ベクトルとする。同型写像なので各 e_i ($i = 1, \dots, n$) に対し $e_i = T_A(b_i)$ となるベクトル b_i が存在する。 $B = (b_1 \cdots b_n)$ とおくと, $AB = A(b_1 \cdots b_n) = (Ab_1 \cdots Ab_n) = (T_A(b_1) \cdots T_A(b_n)) = (e_1 \cdots e_n) = E$ となり, B が A の逆行列である事が分かる。よって A は正則行列である。

(3) $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} \in U$ とし, $T(x) = T(y)$ とする。 $T(x) = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}, T(y) =$

$\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$ なので $x_1 = y_1, x_2 = y_2$ が成立している。 $x, y \in U$ という事から $x_1 + x_2 + x_3 = 0, y_1 + y_2 + y_3 = 0$ が成立している。よって $y_3 = -y_1 - y_2 = -x_1 - x_2 = x_3$ となり, $x = y$ 即ち T は一

対一写像である。任意の $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ に対し $x = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ -y_1 - y_2 \end{pmatrix}$ とすると $x \in U$ であり,

$T(x) = y$ となる。よって T は上への写像である。

(4) 結論は A が正則のとき T 及び S は同型写像であり, 正則でないとき T 及び S は同型写像でない。 T に関してのみ証明する。 A が正則のとき B を A の逆行列とする。 $X, Y \in M(2; K)$ に対し $T(X) = T(Y)$ が成立しているとする。 $AX = AY$ に左から B をかけると $B(AX) = B(AY)$ より $(BA)X = (BA)Y$ 即ち $X = Y$ を得る。よって T は一対一写像である。任意の $Y \in M(2; K)$ に対し $X = BY$ とおくと $T(X) = AX = A(BY) = (AB)Y = EY = Y$ となり上への写像である事が分かる。以上により T は同型写像である。

逆に T が同型写像のとき A が正則である事を示す。 $E \in M(2; K)$ なので, ある行列 $B \in M(2; K)$ が存在して $E = T(B)$ となる。このとき $E = T(B) = AB$ なので, B は A の逆行列である。よって A は正則行列である。

(5) $D : \mathbb{R}[x] \rightarrow \mathbb{R}[x]$ は上への写像ではあるが, 一対一写像ではない。 $D(1) = D(0)$ だが $1 \neq 0$ なので一対一でない事は分かる。任意の $f(x) = a_n x^n + \cdots + a_1 x + a_0 \in \mathbb{R}[x]$ に対し $F(x) = \frac{a_n}{n+1} x^{n+1} + \cdots + \frac{a_1}{2} x^2 + a_0 x$ とおくと, $D(F(x)) = f(x)$ となるので上への写像になる。

$D : \mathbb{R}_n[x] \rightarrow \mathbb{R}_n[x]$ は上への写像でもないし, 一対一写像でもない。 $D(1) = D(0)$ かつ $1 \neq 0$

は前と同じである。 $D(g(x))$ の次数は $g(x)$ の次数から 1 を引いたものなので、 $D(g(x))$ の次数は $n-1$ 以下である。 $f(x)$ を次数 n の多項式とすると $D(F(x)) = f(x)$ となる多項式 $F(x)$ は $\mathbf{R}_n[x]$ には存在しない。

(7) $\mathbf{a} = \{a_i\}, \mathbf{b} = \{b_i\}$ を $a_1 = 0, b_1 = 1$ とし、 $i \geq 2$ にたいしては $a_i = b_i = 0$ とする。 $\mathbf{a} \neq \mathbf{b}$ ではあるが $S(\mathbf{a}) = S(\mathbf{b})$ となっているので $S : \text{Seq}(\mathbf{R}) \rightarrow \text{Seq}(\mathbf{R})$ は一対一ではない。任意の $\mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Seq}(\mathbf{R})$ に対し $a_1 = 0, a_i = b_{i-1}$ ($i \geq 2$) とおくと $S(\mathbf{a}) = \mathbf{b}$ となるので、 S は上への写像である。

$S' : \text{Fib} \rightarrow \text{Fib}$ は同型写像である。まず一対一。 $\mathbf{a} = \{a_i\}, \mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Fib}$ とする。 $S'(\mathbf{a}) = S'(\mathbf{b})$ とすると $i \geq 2$ に対し $a_i = b_i$ が成立する。Fib に入る事から $a_1 + a_2 = a_3$ 及び $b_1 + b_2 = b_3$ が成立している。よって $a_1 = a_3 - a_2 = b_3 - b_2 = b_1$ から $\mathbf{a} = \mathbf{b}$ が分かる。次に上への写像。任意の $\mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Fib}$ に対し $\mathbf{a} = \{a_i\}$ を次のように定義する； $i \geq 2$ に対し $a_i = b_{i-1}, a_1 = a_3 - a_2$ 。このとき $\mathbf{a} \in \text{Fib}$ であり、 $S'(\mathbf{a}) = \mathbf{b}$ となる。

(8) ここでは $X = \mathbf{R}$ として考えよう。 $D(1) = D(0)$ かつ $1 \neq 0$ なので D は一対一でない。また任意の $f(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$ に対し $F(x) = \int_0^x f(x)dx$ とおくと $D(F) = f$ となるので、 D は上への写像である。

S は一対一であるが上への写像ではない。 $f(x), g(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$ に対し $S(f) = S(g)$ とすると、任意の $x \in \mathbf{R}$ に対し $xf(x) = xg(x)$ である。 $x \neq 0$ のときは x で割る事で $f(x) = g(x)$ が分かる。また $f(0) = \lim_{x \rightarrow 0} f(x) = \lim_{x \rightarrow 0} g(x) = g(0)$ から $f = g$ が得られる。 S が上への写像であるとして、定数関数 1 に対し $S(f) = 1$ となる $f(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$ が存在する。このとき任意の $x \in \mathbf{R}$ に対し $xf(x) = 1$ となる。所が $x = 0$ を代入して $0 = 1$ を得るので矛盾。よって S は上への写像でない。